

第Ⅰ部 原始・古代  
第2章 律令国家の形成  
3 平城京の時代 2

教科書 P.49～52

# 今回の学習範囲

---

1. 藤原氏の政界進出
2. 社会不安と鎮護国家
3. 政界の動揺と仏教政治



# 1. 次の人物を、系図を使って説明しなさい。

《例》長屋王：天武天皇の孫。光明子の立后をめぐって藤原四子と対立するが、四子の陰謀によって自殺する。

①藤原四子：

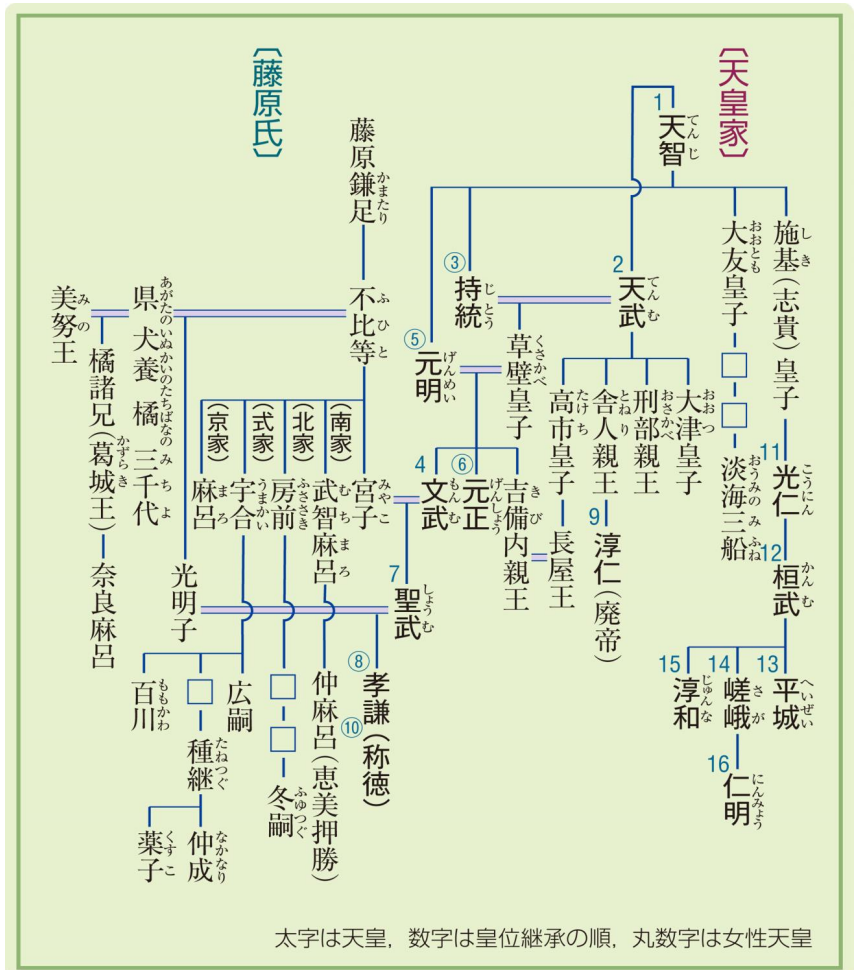
②橘諸兄：

③藤原広嗣：

④藤原仲麻呂：

⑤孝謙(称徳)天皇：

⑥道鏡：





## 2 長屋王政権と藤原四子→ 不比等の死後、皇族の（イ**長屋王**）が左大臣となり政権を主導したが、藤原四子と対立、四子の策謀によって自殺に追い込まれた。（長屋王の変）

**長屋王**：天武の孫  
正二位、左大臣  
屋敷の広さ4町、  
年収1億2500万！

「謀反の疑いあり！」と屋敷を取り囲む

**藤原四子**(不比等の子)

武智麻呂(むちまろ)→南家  
房前(ふささき) →北家  
宇合(うまかい) →式家  
麻呂(まろ) →京家



**反対！**

729年妻と自殺

**光明子立后問題  
で対立**

聖武天皇の皇后に。  
皇后の地位は皇族しか  
なれなかった！



737年、**天然痘**  
で藤原四子は全  
員病死…

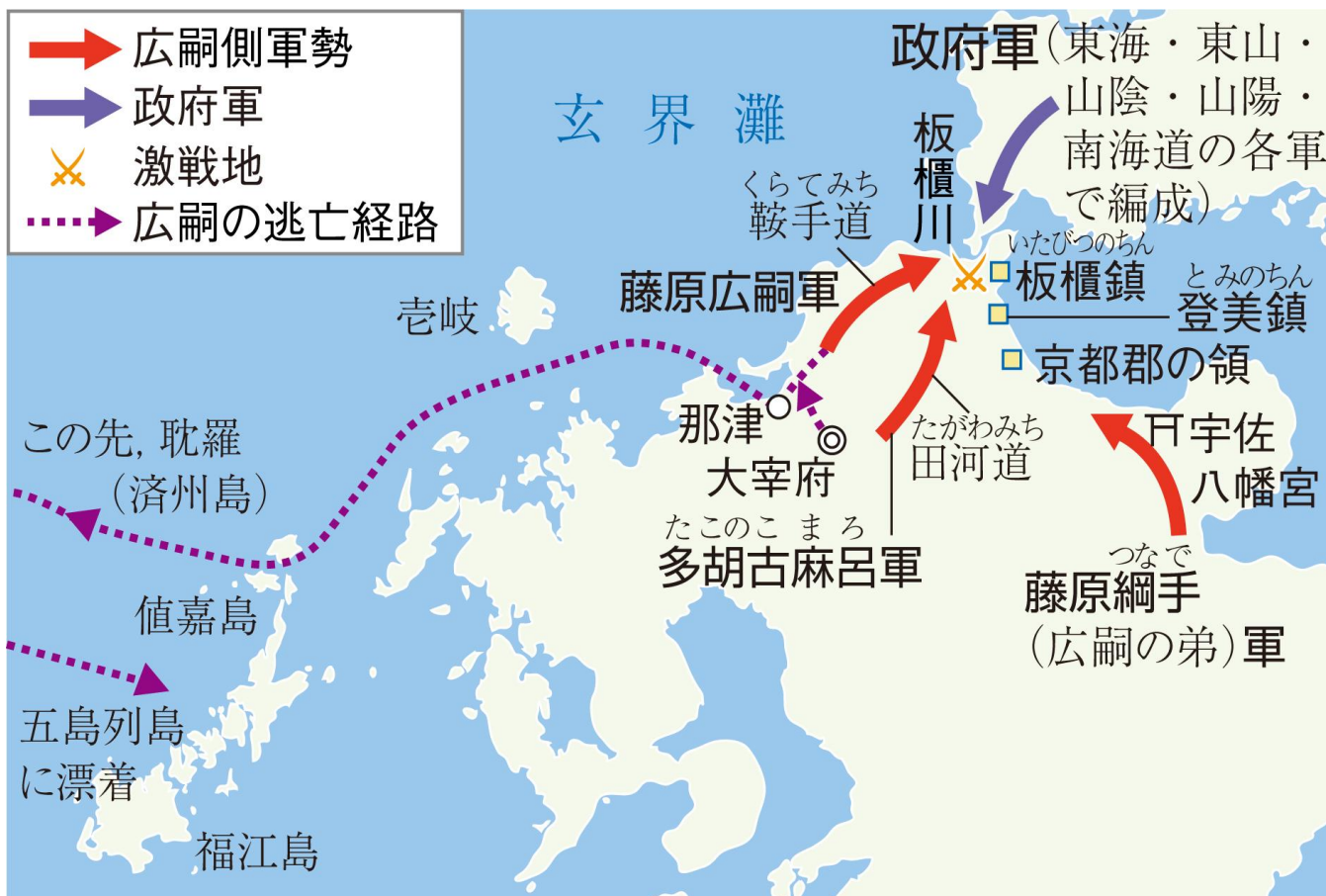
**長屋王が  
怨霊に？**

### 3 橘諸兄政権と藤原広嗣の乱 → 藤原四子の死後、皇族出身の橘諸兄が聖武天皇を支え、唐から帰国した(ウ吉備真備)や僧(エ玄昉)が活躍したが、反対する(オ藤原広嗣)が大宰府で反乱を起こした。

橘諸兄：皇族から臣籍降下

741国分寺建立  
743大仏造立・墾田永年私財法など、聖武天皇の政策を支える。

藤原広嗣：式家、宇合の子。大宰府に左遷された。



2. 聖武天皇は、なぜ大仏を作らせたのか？  
唐の影響と国内的要因から説明しなさい。

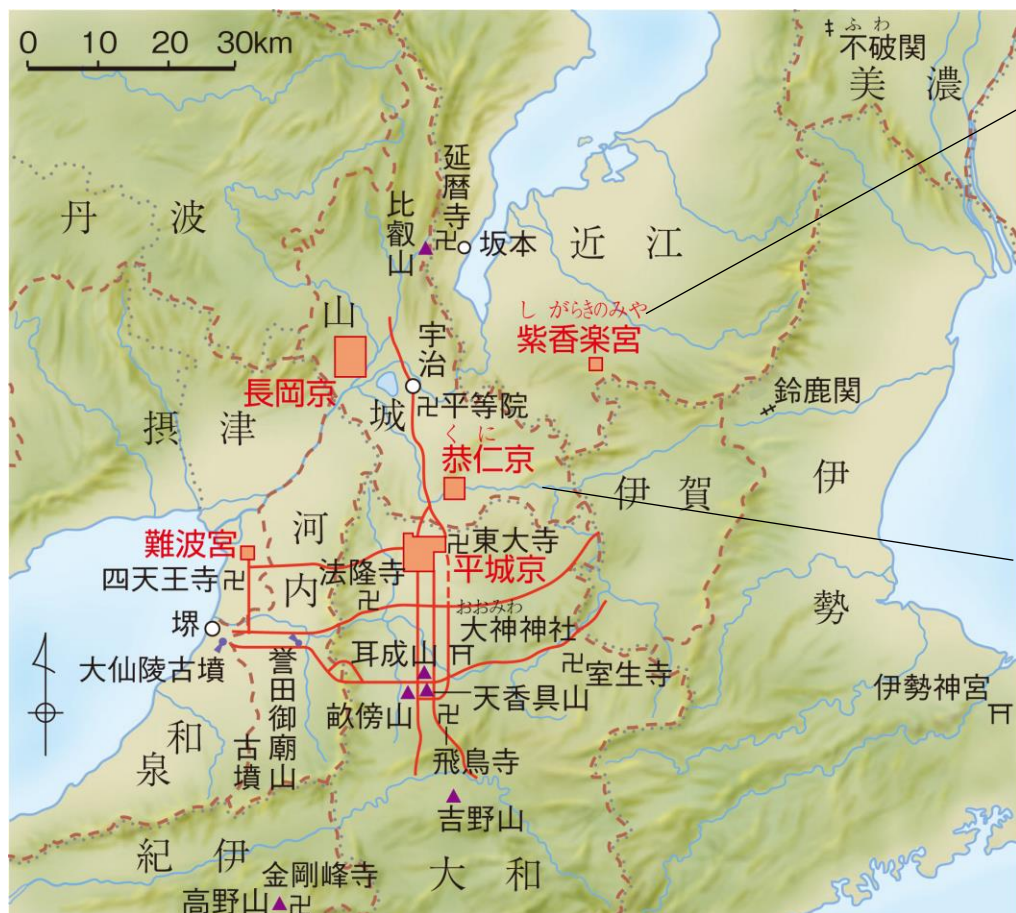
①唐の影響【ヒント】資料集p74

②国内的要因

【ヒント】大仏造立の詔から、聖武天皇の思いを読み取ろう。

1 鎮護国家思想による国家の安定→ 藤原広嗣の乱や飢饉・疫病などの社会不安のもと、聖武天皇は宮や京を転々と変えながら、仏教の(力鎮護国家)の思想によって国家の安定をはかろうとした。

8世紀後半 鹿兒島で火山噴火  
8世紀前半 河内・大和・美濃大地震  
天然痘の大流行



大仏造立の詔 (743年)

鎮護国家資料集 p74で調べよう。

国分寺建立の詔 (741年)



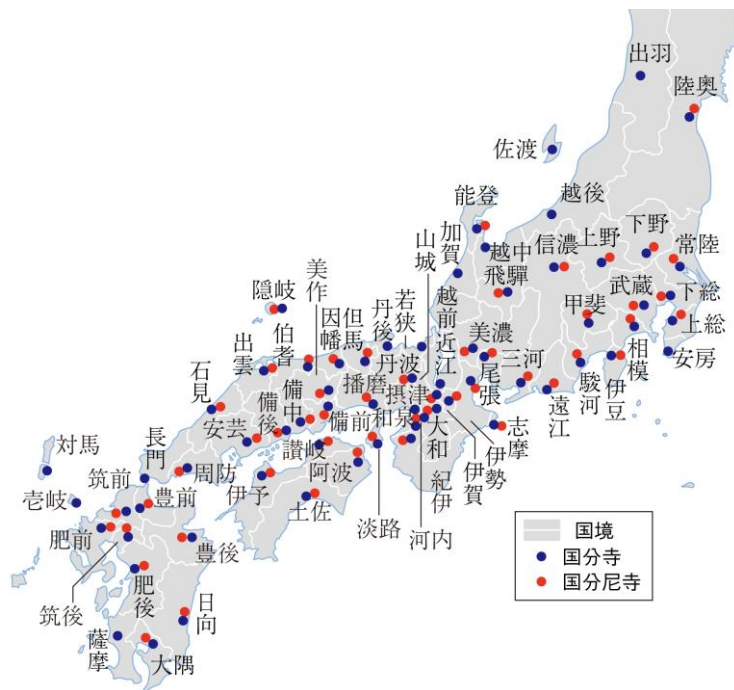
# 2 国分寺・国分尼寺の建立→ 741年、聖武天皇は国分寺建立の詔を出して、諸国に国分寺・国分尼寺をつくらせた。

## 国分寺建立の詔

(天平十二年) ①三月……乙巳②、詔して曰く。「……宜しく天下諸国をして各敬みて七重塔一区を造り、并せて金光明最勝王經・妙法蓮華經各一部を写さしむべし。……僧寺には必ず廿僧有らしめ、其の寺の名を金光明四天王護国之寺③と為し、尼寺には一十尼ありて、其の寺の名を法華滅罪之寺④と為し、両寺相共に宜しく教戒⑤を受くべし。……」と。

(『続日本紀』、原漢文)

- ①七四一年。
- ②二月十四日の誤り。
- ③国分寺。
- ④国分尼寺。
- ⑤教え。



僧の増加→質の低下  
・寺院勢力の強大化

3 東大寺大仏の造立→ (キ        年、聖武天皇は近江の  
(ク紫                      大仏造立の詔を出し、745年に平城京に  
戻ると、大仏造立は奈良で続けられ、752年に完成した。

## 大仏造立の詔

(天平十五年) ①冬十月辛巳、詔して曰く。……………  
に天平十五年歲次癸未十月十五日を以て、菩薩の大願  
②を発して盧舎那仏③の金銅像一軀を造り奉る。……………  
夫れ天下の富を有つ者は朕なり。天下の勢を有つ者も朕なり。此の富勢を以てこの尊像を造る。事や成り易き、心や至り難き。……………」  
(『続日本紀』、原漢文)

①七四三年。②仏教を興隆し、衆生を救おうという願い。③華嚴経の本尊。仏国土をあまねく照らす仏。

さて、問題。

このあと、聖武天皇は、何を言おうとしたのでしよう？

（大仏造立の詔の続き）

もしさら

いっし

いっば

：如更に人の一枝の草一把の  
土を持ちて、像を助け造らむ

こころ

ほしいまま

と情願ふ者あらば、恣にこれ

ゆる

つかさ

こ

を聴せ。国郡等の司、此の事

より

おか

なや

に因りて百姓を侵し擾まし、

おさ

なか

強ひて収斂めしむること莫れ。

1 藤原仲麻呂の台頭→ 光明皇太后と信を得て勢力をのばした南家(ケ藤原仲麻呂)は、淳仁天皇を擁立して「コ**恵美押勝**」の名を賜り、権力を独占した。

民部卿と式部卿を兼任…→760太政大臣に！

2 道鏡の台頭→ 光明皇太后の死→恵美押勝は後ろだてを失う→孝謙太上天皇は**道鏡を寵愛**…。

764年 恵美押勝が道鏡の排除を求めて挙兵し**戦死**  
(**恵美押勝の乱**)

→ 淳仁天皇は淡路に配流

同年 孝謙太上天皇が重祚→**称徳天皇**  
→ 道鏡は**太政大臣**禅師→**法王**に出世！

### 3 宇佐神宮の神託と道鏡の失脚→

称徳天皇は(サ宇佐八幡の神託)によって道鏡に皇位を譲ろうとしたが、(シ和気清麻呂)らの行動で挫折、天皇が亡くなると道鏡は失脚した。

769年 宇佐に派遣された和気清麻呂は**逆の神意報告!**  
→道鏡の即位を阻止(宇佐八幡神託事件)

770年 称徳天皇の死  
→後ろ盾を失った道鏡を**下野薬師寺**に追放



藤原百川(式家)ら、**光仁天皇**(天智天皇の孫)を即位させる。

(天武天皇系の皇統→**天智天皇系の皇統へ**)

# まとめと振り返り

---

## 1. 藤原氏の政界進出

藤原不比等は、天皇の外戚となって藤原氏の地位を高めた。不比等の死後は、長屋王、藤原四子、橘諸兄と政権が移った。

## 2. 社会不安と鎮護国家

藤原広嗣の乱や飢饉・疫病などの社会不安の中で、聖武天皇は仏教の鎮護国家の思想によって国家を安定させるために国分寺や大仏をつくった。

## 3. 政界の動揺と仏教政治

藤原仲麻呂(恵美押勝)の台頭や道鏡の仏教政治で政界が動揺したが、光仁天皇が即位して律令政治の再建がめざされた。

## 問いかけ

長屋王はなぜ、光明子が皇后になることに反対だったのか、説明しよう。

---

律令では皇后の条件に皇族出身とあり、光明子は藤原氏出身で皇族ではなかったため。また、皇后には皇位継承の発言権もあり、光明子はその権限をもつことを避けたかったため。

### 【補足】

皇后は律令では皇族であることが条件とされ、天皇亡きあと臨時に政務をみたり、みずから天皇に即位することもあり、また皇位継承の発言権をもてる立場であった。